

## 財務の概要

### ■事業活動収支計算書の概要

2018（平成30）年度の法人全体の事業活動収入合計額は、1951.4百万円と予算を39.7百万円下回る結果となりました。要因は、学生生徒等納付金が大幅に下回ったためです。

学生生徒等納付金収入が予算比57.4百万円下回りました。これは、大学学費値上げの影響を過大に見積もったことが要因です。

手数料収入は、ほぼ予算通りでした。

寄付金は9.6百万円下回りました。これは、前年度までの大学開学50年記念事業寄付疲れがあったことと、施設設備寄付金（特別収入）に4.6百万円移したことが要因です。

経常費等補助金は15.3百万円上回りました。これは、国庫補助金が13.3百万円増加したことが主な要因です。

付随事業収入は、補助活動収入が減少したために、予算に対して5.9百万円下回りました。

雑収入は6.4百万円下回りました。これは、私立大学等退職金財団からの交付金が8.0百万円減少したことが主な要因です。

教育活動外収入は、3.5百万円増加していますが、受取利息・配当金の増加によるものです。

特別収入では、施設設備補助金が14.1百万円、施設設備寄付金・現物寄付が4.6百万円増加し、予算を21.0百万円上回っています

一方、法人全体の事業活動支出の部合計は1730.0百万円となりました。これは、予算と比較すると34.4百万円下回っています。要因は人件費の大幅減少が要因です。

人件費は53.4百万円減少しました。これは、退職者の代替者の採用が進まず、人員減となったことが主な要因です。

教育研究経費が11.8百万円増加しました。これは、今年度から開始した中学校・高等学校のウェークアップ全員留学が主な要因です。

管理経費が19.2百万円減少しました。これは、修繕費減少が主な要因です。

教育活動外支出は、ほぼ予算通りでした。

特別支出が25.8百万円上回りました。図書処分を積極的に進めたことによる図書処分差額16.8百万円の増加が主な要因です。

結果、経営状態の指標となる、基本金組入前当年度収支差額は221.4百万円の黒字となりますが、予算に対しては5.3百万円下回ることとなりました。

### ■資金収支計算書の概要

2018（平成30）年度は、CROSSLIGHT 建築のため大きく資金が動いています。法人全体の翌年度繰越支払資金1614.3百万円と前年度繰越支払資金1812.5百万円と比較すると、新校舎建築に伴う資金として借入金等収入300.0百万円・施設設備補助金214.1百万円、施設関係支出749.6百万円・設備関係支出245.5百万円もあって198.2百万円減少しています。

今年度より、預り金・立替金については、従来の両建て方式は止め、相殺方式に変更しています。予算は両建て方式で計上しましたが、決算は相殺方式としています。そのため収入の部合計、支出の部合計共に、予算比444.8百万円の減少差異となっています。

以上